

名取市閑上地区民生委員児童委員協議会

(平成25年1月18日掲載)

東日本大震災での閑上地区の死者は749名、不明者は名取市全体で42名、民生委員・児童委員18名のうち3名が犠牲となり14名の委員の家屋が流出しました。

民生委員・児童委員としての活動は全くできない状況にあり、4月に入りやっとお互いの無事を確かめ合うことができました。

5月の連休明けから仮設住宅の入居が始まり、7月には全ての避難所が閉鎖され、住民は6ヶ所の仮設住宅、雇用促進住宅、そしてみなし仮設住宅である民間賃貸住宅へと生活の場を移し、落ち着くことが出来ました。

この時点から担当地区での活動が不可能となり、犠牲になった3名と被害の少ない3地区3名を除いた12名の委員は、3人ずつのグループ体制で各仮設住宅への見守り活動を中心に動き始めました。

9月からは復興支援相談員、自治会長と連携し、情報を共有し、定期的に訪問活動をしています。必要に応じ地域包括支援センターや保健センターとも情報交換することもあります。

仮設住宅には県内外からも被災者が入居しており、訪問回数を重ねるうちに担当地区外だった住民の皆さんとも会話が弾み、いろいろな相談を受けるようになってきました。一人暮らしの方から、緊急連絡システム装置についてや、生活保護の相談も増えてきました。また、見守りを兼ねての社協の配食サービスの利用者も出てきました。

しかし、民間のみなし仮設住宅で生活している皆さんとは、連絡もあまり取れず、身近な人が多数犠牲となった震災で、一瞬にして担当地域での活動を中断せざるを得なかった我々も、未だに心の整理ができていません。

今後、手探りしながらもこれまでの閑上地区での活動を踏まえ、委員全員で意見交換し取り組んでいきたいと思えます。

仮設住宅の生活に慣れ、元気に生活している人も多くなってきました。集会所のイベントに集まる人が増え、パッチワーク等を楽しむグループも出てきました。少しずつですが前を向いて皆さん歩き出しました。我々民生委員・児童委員も皆さんに寄り添った活動を念頭に歩み始めています。



民生委員・児童委員も参加した仮設住宅での調理教室